

雨の中、紀北町を駆ける

3年ぶりシートウサミット

アウトドアスポーツを通じて自然を体感する三重SEA TOSU MMIT(シートウサミット)2022が12月13の両日に行われた。26都府県から1977人がエントリーして雨の中、カヤックや自転車、ハイク

で城ノ浜から便石山頂上までの約30キロを縦断した。

シートウサミットは「自然の循環に思いを巡

らせてあげがえのない自然について考える」をテーマとし、全国各地で開かれている。紀北町では、町内の観光・スポーツ団体やアウトドア用品メーカーのモンベルが実行委員会を組織し、町内外の組織から後援や協力を受けて平成29年から毎年行ってきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一昨年と昨年は中止を余儀なく

されており、今回は3年ぶりの6回目の大会となった。

初日の12日に開会式と環境シンポジウムが東長島公民館で行われた。開会式で尾上壽一町長は、町の美しい風景や世界遺産登録20周年を迎える熊野古道などに触れ「町としては健康づくりやスポーツ振興に力を入れていく中、これほど多くの元気な人に集まっていたことに感謝したい。紀北町の自然を満喫していただきたい」と参加者を激励。実行委員長を務める田上至文流空間みやま会長は「コロナ禍でやりたくてもできない悔しい気持ちを持ち続けている中、このシートウサミットが有意義なことだと痛感している。コロナでまだ閉塞感はあるが、参加していただいた皆さんの勇気と頑張る姿がこの地域を元気にしてほしい」と呼びかけた。

2日目の13日の午前7時、東長島の城ノ浜海水



続々と大白海岸に到着するカヤック

浴場から参加者が一斉にスタートし、カヤックやSUPで11キロ先の矢口浦の大白海岸を目指した。先頭集団が大白海岸に到着しバイクで走り出した8時過ぎに雨が降り出した。参加者は雨の中ペダルをこいで、矢口浦から引本浦を抜けて白石湖を一周し、銚子川沿いを走って16キロ先の便石山の権兵衛の里駐車場に到着。権兵衛の里で自転車を降り、標高599メートルの便石山の頂上を目指して3キロの道のりを歩いた。

雨が降る中、参加者を元気づけようとまちなかでは町民が手旗を振り「頑張れー」と声援を送った。大白公園で応援した80代の女性は「いつもは夕方に公園を散歩するのが日課だが、今日は応援したことでこの時間にした。コロナで大変だったけど3年ぶりに開けて良かったし、町に来てくれてありがとうという気持ちで応援している」と笑顔で話した。